

29Q-pm05S

地域特産果樹を活用した生薬国産化研究：シテイ(KAKI CALYX)の品質評価
○楠木 歩美¹, 亀山 眞由美², 箭田 浩士², 末元 吹季¹, 高木 達也¹, 後藤 一寿²,
高浦 佳代子^{1,3}, 高橋 京子^{1,3} (¹阪大院薬, ²農研機構, ³阪大博)

【目的】シテイ(柿蒂 KAKI CALYX)は日本薬局方外生薬規格(:局外生規)に「カキノキ *Diospyros kaki* Thunberg の成熟果実の宿存萼(がく)」と規定される、吃逆の主要な軽減薬である。国内需要年間約 1 t は全て中国産である。一方、柿生産量全国 2 位の奈良県では年間約 3 万 t の柿果実を生産している。地域特産果樹に蓄積された篤農技術や、食用と薬用部位が異なる循環型活用を提案し、シテイの国産化を目指す。局外生規には指標成分の規定が無いため、実地臨床使用の中国産品を指標にシテイの品質評価法を検討した。**【材料・方法】**2014 年の日本市場流通品(:中国産品)4 検体及び、2015 年秋採集の県産品 9 検体を用いた。県産品は年間出荷量及び栽培面積の上位 3 品種(刀根早生・富有・平核無)各 10~20 個体を異なる 3 圃場から入手した。抽出方法・前処理方法・測定条件は、奈良県医療政策部薬務課が 2014 年に実施した県医療機関 75 か所から得た使用調製法に準じた。分析は農研機構・食品総合研究所で実施した。**【結果・考察】**県医療機関では 100 %柿蒂煎で処方されることから、試料 1 g/10 mL で熱水抽出し、水溶性成分であるポリフェノール類に着目した。前処理には限外ろ過を行い、0.1 %ギ酸とアセトニトリルのグラジエント条件で逆相 HPLC 分析[装置:アジレント社 HP1100(フォトダイオードアレイ検出器付)、カラム:インタクト社 Scherzo SM-C18(2.0 I.D.×150 mm, 3µm)]を行った。中国産品と県産品について 4 波長で検出した網羅的成分パターンの保持時間とピーク面積を多次元尺度構成法で解析した結果、富有以外の県産品は中国産品と近距離の位置に布置された。富有は甘柿品種だが、他はすべて渋柿品種である。現在、定量分析用ポリフェノール標品(エピガロカテキンガラート、イソケルシトリン他)を用い、絶対検量線法による中国産品及び県産品の成分含有量を比較検討中で、品質評価指標について報告する。